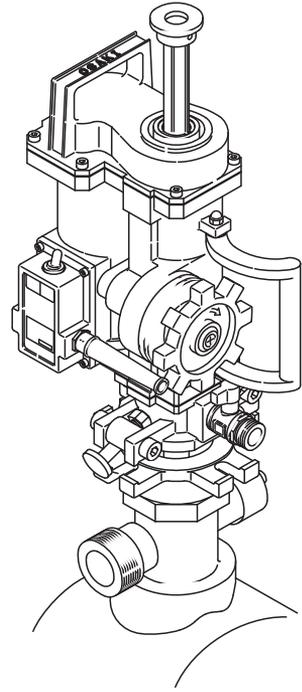


水道用電動穿孔機  
Type A-2R  
ファルコン  
取扱説明書



このたびは「水道用電動穿孔機ファルコン」をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。本機の大きな特長としてクラッチ機構を採用しておりますので、その取扱いに注意が必要となります。ご使用に先立ち、この取扱説明書を最後までよくお読みいただき、使用上の注意・使用方法などについて十分ご理解の上、末永くお使い下さいますようお願い致します。

また、本書をいつでも活用できるよう所定の場所に保管して下さい。

## 安全に正しくお使いいただくために

### 絵表示について

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読み下さい。

 <b>警告</b>	この表示を守らずに誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容および物的傷害のみの発生が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を守らずに誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的傷害のみの発生が想定される内容を示しています。

### シンボルマークの意味

	安全に係る注意情報を意味しています。
	禁止の行為であることをお知らせするものです。
	行為をお守りいただく内容をお知らせするものです。

# OSAKI

## [安全上のご注意]

 <span style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">警 告</span>		
<p>火傷の恐れあり</p> 	<p>★定格を超える連続作業はお止め下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本体の温度上昇により火傷をします。</li> </ul>	
<p>けがの恐れあり</p> 	<p>★回転中のスピンドルに触れないで下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピンドルの回転により、巻き込まれる恐れがあります。</li> </ul>	 
	<p>★穿孔終了後のスピンドル上部に、顔・手足を近づけないで下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピンドルを解除した時、水圧によるスピンドルの急激な上昇があり危険です。</li> </ul>	 
	<p>★ドリル・カッターの刃に触れないで下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カッター・ドリルは鋭利な刃物です。回転中は絶対に手を触れたり物を近づけないで下さい。素手で触れるとけがの恐れがあります。</li> </ul>	 
	<p>★ドリル・カッターを他の作業へ転用しないで下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな事故につながります。</li> </ul>	
<p>感電の恐れあり</p> 	<p>★水中での使用はお止め下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・密閉構造になっていますが、水没させたり、強い雨の中でのご使用、濡れぞうきんでのお手入れはお止め下さい。</li> </ul>	 
	<p>★濡れた手でプラグを触らないで下さい。</p>	 
	<p>★電源プラグはコードを引っ張らずにプラグを持って抜いて下さい。</p> <p>★アースは必ず取り付けて下さい。</p>	   

 <span style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">注 意</span>		
<p>—————モーター焼損・漏電の原因になります—————</p>		
<p>★電源は必ず100Vでご使用下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100V以上でのご使用はモーターの回転が異常に高くなり危険です。また100V以下ではモーターに負担がかかります。</li> </ul> <p>★2Kw以上の発電機を単独でお使い下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他のものと発電機を共用しないで下さい。電圧降下します。</li> </ul> <p>★ネジ部の締め付けは確実に行って下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本体及びサドル付分水栓の破損の原因となります。</li> </ul>	 	  

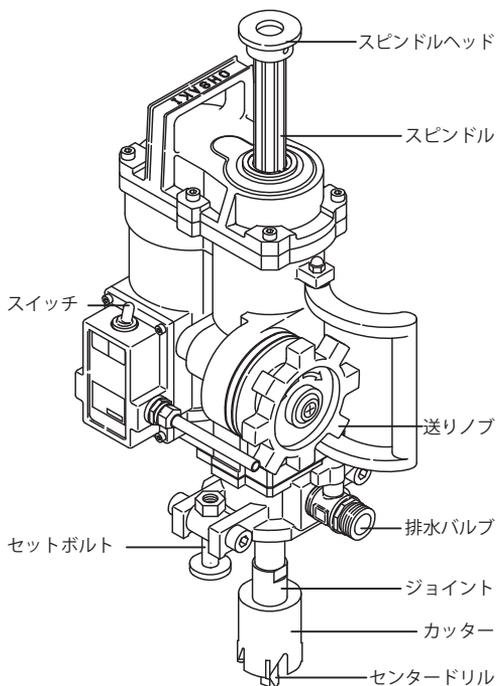
## [使用上のご注意]

- ◇定格以内での使用中に本体に異常な温度上昇があった場合や、パッキンの損傷などが見られる時はただちに修理にお出し下さい。
- ◇排水バルブを閉めたまま穿孔を行うのはお止め下さい。水圧が本体内部にかかり、削り屑がたまり、それが硬化して故障の原因となります。
- ◇延長コードをご使用の際は、穿孔機側を先につなぎその後電源に差し込んで下さい。またキャプタイヤコードは本体と同等以上のものをお使い下さい。細いコードや長いコードを使うとケーブルの発熱や電圧降下をおこします。
- ◇投げたり落としたりしないで下さい。
- ◇改造及び分解等はしないで下さい。

## [末永くご使用頂くために]

- ◇早めにドリル・カッターを研磨にお出し下さい。摩耗したドリルやカッターは本体の寿命を縮めます。また、それ自信の破損及び故障の原因となります。
- ◇使用後はドリル・カッターを必ず外して下さい。錆びたものを無理に外すと、ジョイント等の破損の原因となります。
- ◇指定工具以外のご使用はお止め下さい。

## [各部の名称]



## [クラッチ機構について]

サドル付分水栓は、製造メーカーや管径により高さが異なります。これを1台の穿孔機で対応させるとスピンドルが長く機械が大型になってしまいます。そこで本機では**クラッチ機構**の採用により、無駄送り・無駄戻しを解消するとともに、いっそうの軽量・小型化が可能となりました。このクラッチの操作を正しく行わないと、完全な穿孔ができませんので、下記の事項をお守り頂きますようお願い致します。

## [クラッチの操作方法]

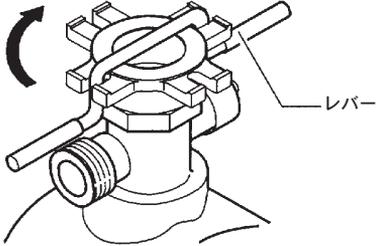
- ①送りノブを解除方向に、バネの抵抗を感じるまでいっぱい回し、手はそのまま保持して下さい。クラッチがはずれ、スピンドルが解除され、片手で軽く上下動できます。
- ②解除方向に手で送りノブを保持したまま、スピンドルを止まるまで押し下げます。ここで手を離してしまうと、クラッチが最適な溝に入らず完全に穿孔しきれないことがあります。
- ③解除方向に保持していた手を離し、次に送りノブをゆっくりと穿孔方向へ回して、クラッチがセットされます。

# [使用 方法]

## 穿孔準備

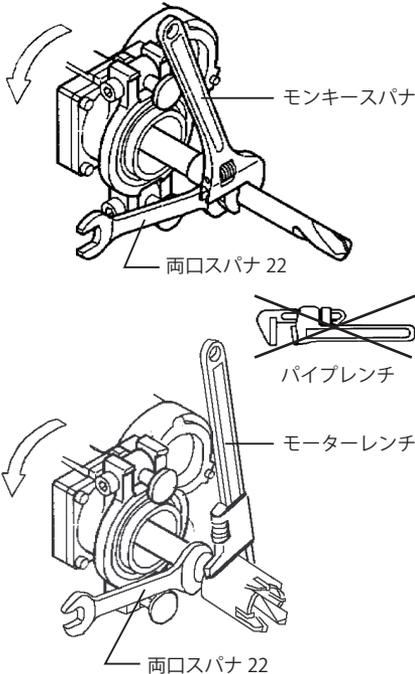
### 1. アダプターの取り付け

**警告**  
電源プラグはまだ差し込まないで下さい。



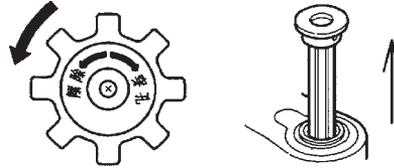
サドル付分水栓に指定のアダプターを確実に取り付けます。

### 2. カッター・ドリルの取り付け



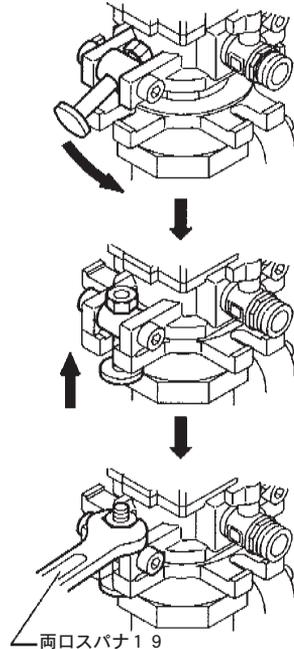
スピンドル先端のジョイントに指定のカッターまたはドリルを確実に取り付けます。このときネジは反時計方向にねじ込みます。

### 3. スピンドルの引き上げ



送りノブを手で解除方向いっぱいまで回し、スピンドルを引き上げます。

### 4. セットボルトによる本体の取り付け



アダプターにゴミ等がないことを確認し、穿孔機本体をセットボルトにより確実に取り付けます。この時、左右均等にセットボルトを締め付けるように気を付けて下さい。

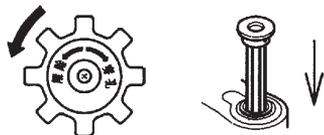
### 5. 排水ホースの取り付け、排水バルブの開閉

排水ホースを排水アダプターのバルブまたは穿孔機のバルブに確実に取り付け、排水バルブを開きます。

## クラッチ操作

〈クラッチ操作方法〉に従い、穿孔セットします。

### 1. スピンドルの押し下げ



送りノブを解除方向いっぱいまで回した状態で、スピンドルを止まるまで押し下げます。

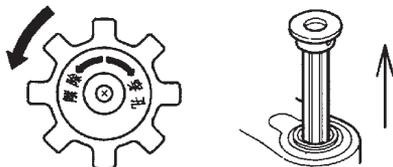
### 2. 穿孔セット



送りノブを穿孔方向にカチッと音がするまで静かに回します。

## 終了

### 1. スピンドルの引き上げ



手で送りノブを解除方向いっぱいまで回し、スピンドルを引き上げます。

この時、水圧がかかっているとスピンドルは開放されると同時に高速で押し上げられます。

#### ⚠ 警告

活管での場合、スピンドルは開放状態で水圧により瞬時に上がります。スピンドルヘッドの上方及び周囲に顔や手足を出さないこと、物を置かないことにご注意下さい。



## 穿孔

### 1. 電源プラグを差し込み、スイッチをONにします。

#### ⚠ 警告

アースを必ず取って下さい。

### 2. 穿孔



#### ⚠ 警告

スピンドルの巻き込まれに注意して下さい。



手で送りノブを穿孔方向に回しながら穿孔します。この時モーターの回転があまり下がらないように注意します。

### 3. スイッチをOFFにして電源プラグを外します。



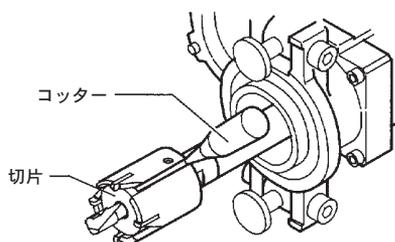
#### ⚠ 警告

電源プラグは必ずプラグを持って抜いて下さい。

### 2. 本体の取り外し

サドル付分水栓を閉じ、穿孔機本体をアダプターから取り外します。

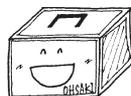
### 3. 切片取り除き



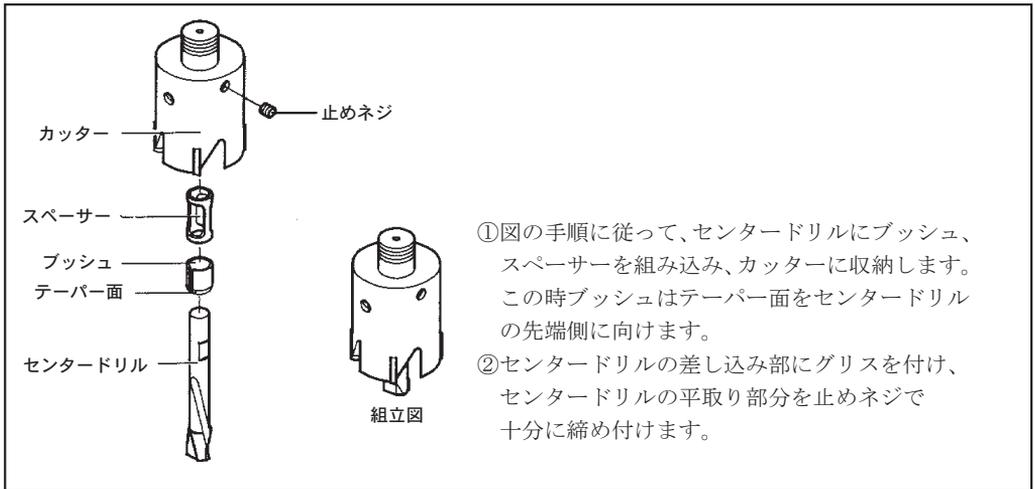
コッターの場合はコッター内の切片をコッターで取り除いておきます。

### 4. 保管

各部品を取り外し、本体と共に収納箱に保管します。

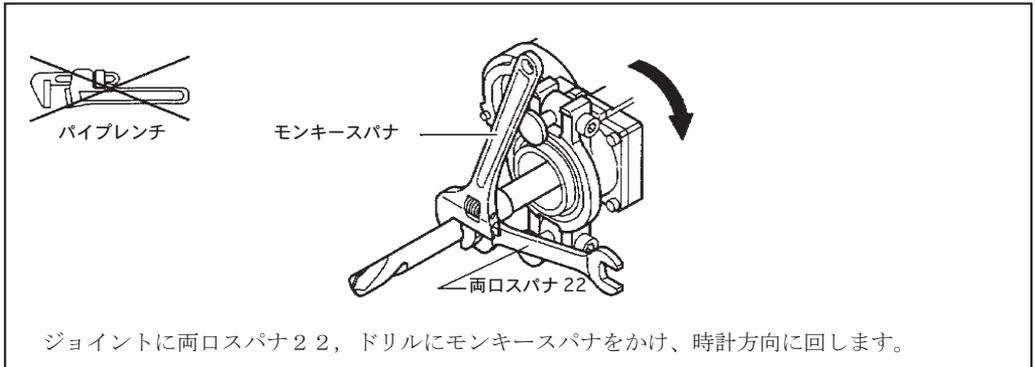


## [ カッターの組み立て方 ]

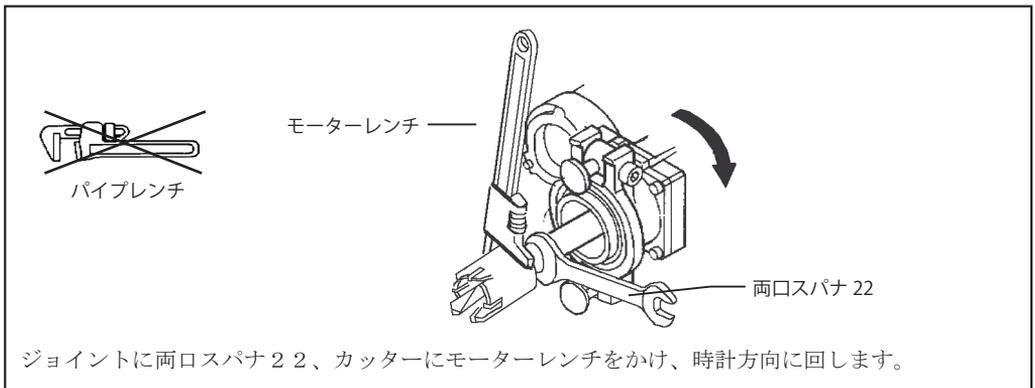


## [ 各部品の取り外し方 ]

### 〈ドリルの取り外し方〉



### 〈カッターの取り外し方〉



## [お手入れ]

定期的に、本体・アダプター等の砂・泥・切粉等を取り除いて下さい。特にアダプターは、内側に切粉等の錆が付着しますと穿孔機取り付け時に平衡が保たれず、片寄った穿孔の原因となりますのでご注意ください。

 <b>警 告</b>
電源プラグを必ず抜いて行って下さい。

## [定期点検]

いつも安全に能率よく使用していただく為に、年1回の定期点検にお出し下さい。

## [仕様]

本 体	電 動 機	単 相 交 流	100V-13A
		周 波 数	50~60Hz
		定 格	10Min
		無 負 荷 回 転 数	380R.P.M.
	能 力	穿 孔 径	(13),20,25,30,40,50
		穿孔ストローク	98~206mm
		穿孔時間	約50秒 (GC50Lカッターによる)
	寸 法	本 体 外 形 寸 法	高さ273mm x 幅182mm x 長さ341mm
		スピンドル全長	535mm
		本 体 重 量	14.8kg

## [標準工具]

名 称	個 数	適 用
レバー	1	アダプター
モーターレンチ	1	カッター
モンキースパナ	1	ドリル
両口スパナ 19x22	1	19:セットボルト用ナット 22:ジョイント
コッター	1	カッター内の切片取り
排水ホース	1	切粉排出
六角棒レンチ 3mm	1	センタードリル止めねじ

## [オプション]

名 称	個 数	適 用
排水アダプター TK25	1	東京都型
排水アダプター TK50	1	東京都型
片口スパナ 24	1	フランジ50

# [ ドリル・カッター・アダプター対応表 ]

鋳鉄管 モルタル ライニング	サドル付分水栓	アダプター	カッター	ドリル	備考
	(13)	25G	-	GD13S	※ジョイントS必要、 アタッチメント13G
	20	20G	-	GD20L	
	25	25G	-	GD25L	
	30	30G	GC30L	-	
	40	40G	GC40L	-	
	50	50G	GC50L	-	
	東京都型50	50TKG	TKC50L	-	
	めねじ40	40SD	SDC40L	-	
	めねじ50	50SD	GC50L	-	
フランジ50	50F	GC50L	-		
鋳鉄管 粉体塗装 ライニング	サドル付分水栓	アダプター	カッター	ドリル	備考
	20	20G	-	GD20LP	
	25	25G	-	GD25LP	
	30	30G	GC30LP	-	
	40	40G	GC40LP	-	
	50	50G	GC50LP	-	
	東京都型50	50TKG	TKC50LP	-	
	めねじ40	40SD	SDC40LP	-	
	めねじ50	50SD	GC50LP	-	
	フランジ50	50F	GC50LP	-	
(鋼管25)	25G	GL25S	-	※ジョイントS必要	

- ・必要に応じ、アダプター・カッター・ドリルの組み合わせを致します。
- ・V P管用ホルソー、PE管用ホルソーも用意しております。
- ・※印はオプション設定となります。



本社・工場 〒146-0081 東京都大田区仲池上 2-19-6  
 TEL. 03-3755-3311(代) FAX. 03-3755-1918

東北営業所 〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1丁目7-30 エグゼクティブ上杉309号  
 TEL. 022-217-2360(代) FAX. 022-217-2370

関東営業所 〒146-0081 東京都大田区仲池上 2-19-6 本社ビル 3F  
 TEL. 03-3755-3313(代) FAX. 03-3755-1918

東海営業所 〒456-0004 名古屋市熱田区桜田町13-2 AiRA-2A  
 TEL. 052-884-2350(代) FAX. 052-884-2351

関西営業所 〒650-0025 神戸市中央区相生町 4-2-28 神戸駅前千代田ビル 8F  
 TEL. 078-361-3331(代) FAX. 078-361-3533

九州営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-13-9 博多駅東113ビル5F  
 TEL. 092-292-4607(代) FAX. 092-292-4608